# 景況レポート

2026年7月～9月期調査

## 景気動向の概況

**業況DIは前期比4.8ポイント改善**

2026年7月から9月にかけては、中東情勢の緊迫化再燃や円安進行を背景に原油高が進み、飲食料品を中心に今年最大の値上げラッシュとなりましたが、賃上げの定着や夏場の個人消費、AI・半導体需要に支えられ景気は緩やかに改善しました。中小企業では価格転嫁がある程度進む一方、人手不足や賃上げ対応、資金繰りには依然として課題が残ります。今期の業種別業況DIは▲7.8で、前期比4.8ポイントのプラスとなり、全体としては「やや改善」となりました。業種別では製造業、建設業、不動産業が「改善」となった一方で、小売業、サービス業は「悪化」となり堅調な業種と低迷する業種で二極化の傾向を示しています。
今後は中東情勢や為替、原油価格に加え、価格転嫁の進捗と人手不足・賃上げ動向を注視する必要があります。また、コスト上昇を収益に反映させる経営対応が一段と重要になってきます。

**調査要領**

| | 依頼先数 | 回答数 | 回答率 |
|---|---|---|---|
| 合計 | 1190社 | 425社 | 35.7% |
| 製造業 | 266社 | 115社 | 43.2% |
| 建設業 | 214社 | 84社 | 39.3% |
| 卸売業 | 242社 | 80社 | 33.1% |
| 小売業 | 177社 | 48社 | 27.1% |
| 不動産業 | 105社 | 38社 | 36.2% |
| サービス業 | 186社 | 60社 | 32.3% |

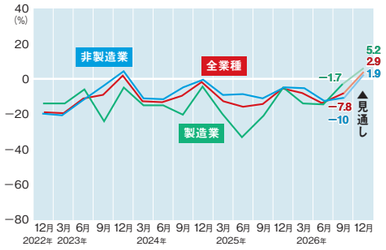
**調査時点**／2026年9月上旬
**調査依頼先**／当庫取引先
**調査方法**／郵送調査
**調査対象期間**／［今期］2026年7月～9月
［前期］2026年4月～6月
［来期］2026年10月～12月
**分析方法**／「増加」(上昇)したとする企業の占める構成比と、「減少」(下降)したとする企業の構成比との差(DI)により分析を行った。
※DI:Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)

## 全業種総合DI

**業況は来期はやや改善、来期はやや改善の見通し**

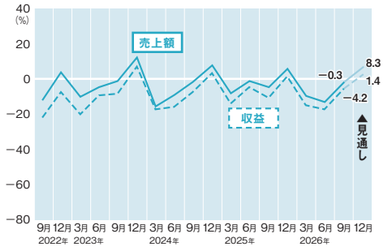
### 業況DIの推移

全業種の業況DIは▲7.8（前期▲12.6）でやや改善となりました。内訳は製造業が▲1.7（前期▲13.9）非製造業が▲10.0（前期▲12.1）となっています。来期は改善の見通しです。



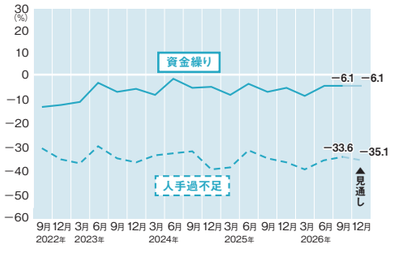

### 売上額DI・収益DI（前期比）

売上額DIは▲0.3（前期▲13.5）で改善、収益DIも▲4.2（前期▲17.1）で改善となりました。来期は売上額DIはやや改善、収益DIもやや改善の見通しです。



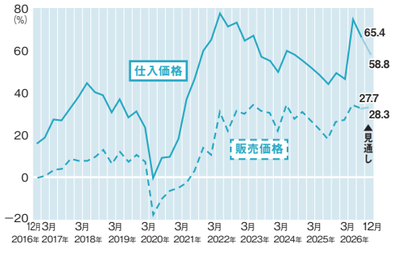

### 資金繰りDI・人手過不足DI

資金繰りDIは▲6.1（前期▲6.1）で横ばい、人手過不足DIは▲33.6（前期▲35.7）で「不足」超となりました。来期は資金繰りDIは横ばい、人手過不足DIは「不足」超の見通しです。

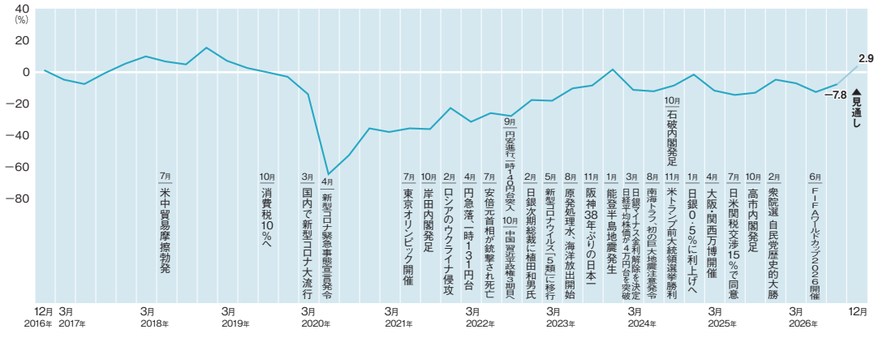



### 10年間の推移（価格DI）

価格は仕入価格DIが65.4（前期72.1）でやや低下、販売価格DIは27.7（前期30.6）でほぼ横ばい。来期は仕入価格DIはやや低下、販売価格DIは横ばいの見通しです。




### 10年間の推移（業況DI）




前期
今期
見通し

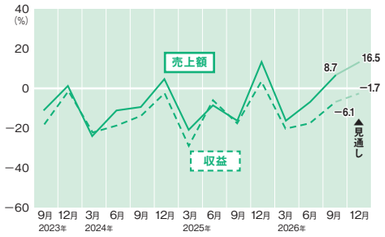
---

## 製造業

**業況は改善、来期はやや改善の見通し**

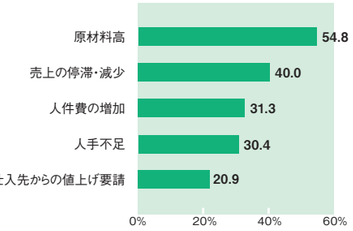
### 売上額・収益DI（前期比）

売上額DIは改善、収益DIも改善



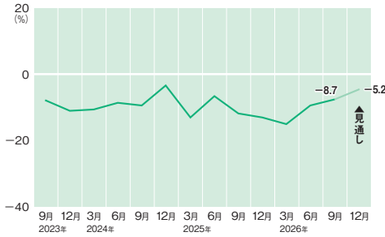

### 経営上の問題点

原材料高が一番の課題



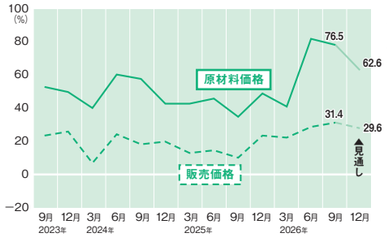

### 資金繰りDI

資金繰りDIは横ばい




### 価格DI

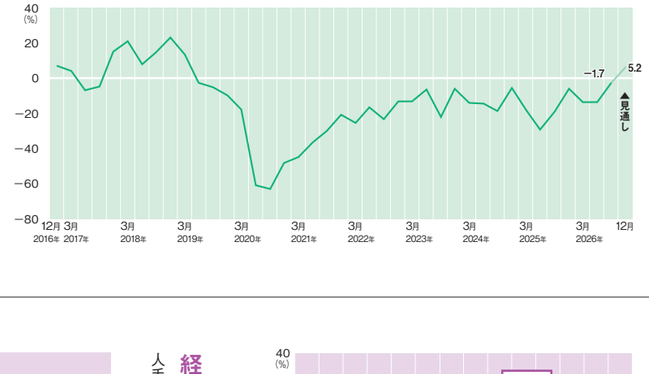
原材料価格DIはやや低下、販売価格DIは横ばい




**お客様の声**

- 中小企業、特に製造業は仕入価格上昇に対応できていない。まだまだ資金繰りについても厳しい
(川西市 製造業)
- 資金繰り支援、価格転嫁支援、原材料・部材の安定調達に向けた支援の充実をお願いします
(尼崎市 製造業)
- 円安、エネルギー価格上昇に不安を感じている(大阪市 製造業)

### 10年間の推移（業況DI）



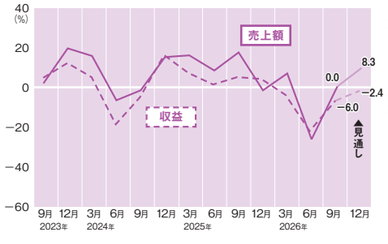

---

## 建設業

**業況は改善、来期は大幅に改善の見通し**

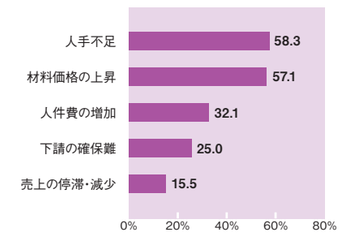
### 売上額・収益DI（前期比）

売上額DIは大幅に改善、収益DIは改善



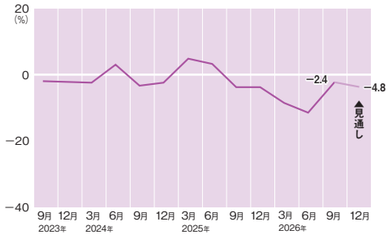

### 経営上の問題点

人手不足と材料価格の上昇が課題



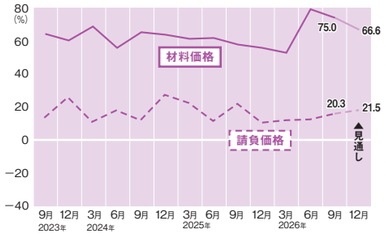

### 資金繰りDI

資金繰りDIはやや改善

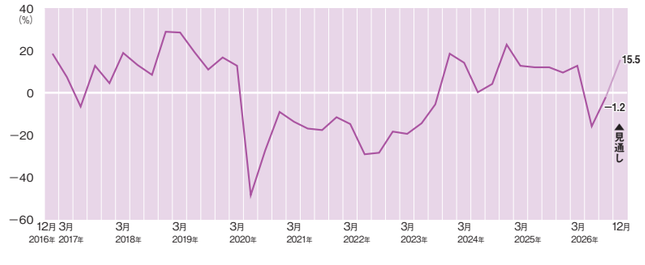



### 価格DI

材料価格DIはやや低下、請負価格DIはやや上昇




### 10年間の推移（業況DI）



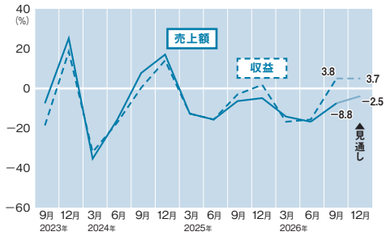

前期
今期
見通し

## 卸売業

業況は横ばい、
来期は改善の見通し

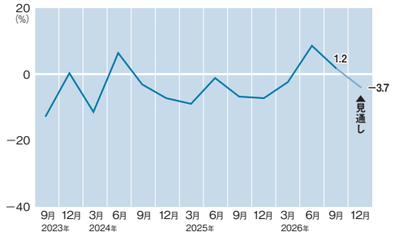
### 売上額・収益DI（前期比）

売上額DIはやや改善、
収益DIは大幅に改善



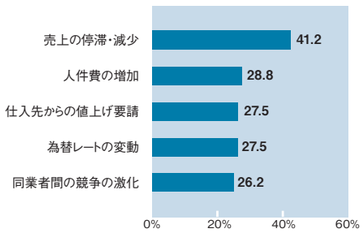

### 資金繰りDI

資金繰りDIはやや悪化



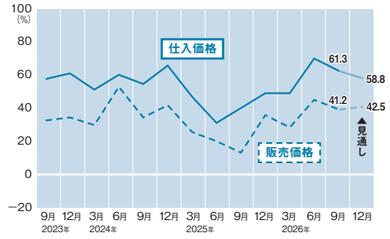

### 経営上の問題点

売上の停滞・減少が
一番の課題

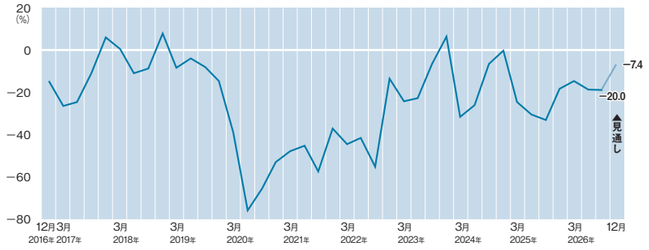



### 価格DI

仕入れ価格DIはやや低下、
販売価格DIもやや低下




### 10年間の推移（業況DI）




**お客様の声**

- 原油高を理由に、包装資材の高騰がひどすぎる。是正して欲しい
（大阪市 卸売業）
- 天災や中東情勢の混迷等の影響で右往左往した数ヵ月間でした
（尼崎市 卸売業）

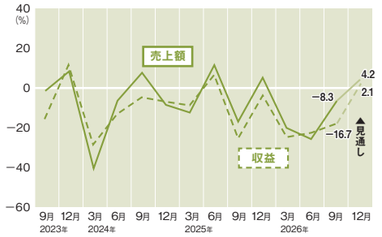
前期
今期
見通し

## 小売業

業況は悪化、
来期は大幅に改善の見通し

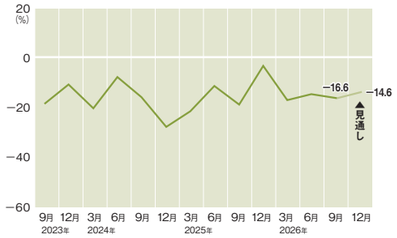
### 売上額・収益DI（前期比）

売上額DIはやや改善、
収益DIはやや改善



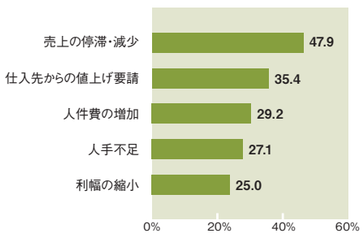

### 資金繰りDI

資金繰りDIは横ばい



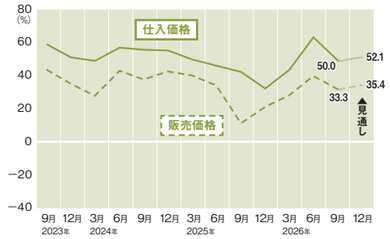

### 経営上の問題点

売上の停滞・減少が
一番の課題

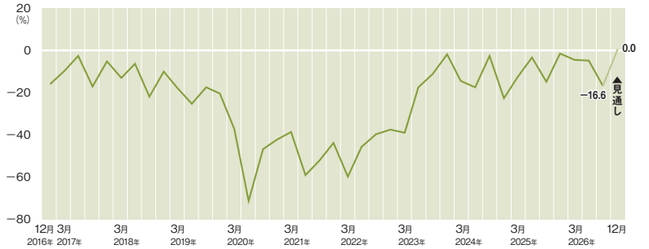



### 価格DI

仕入価格DIは低下、
販売価格DIはやや低下




### 10年間の推移（業況DI）



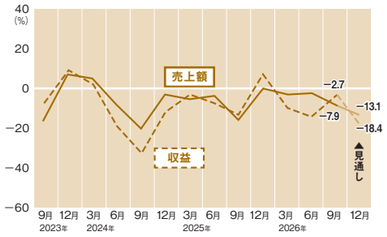

前期
今期
見通し

## 不動産業

業況は改善、
来期は悪化の見通し

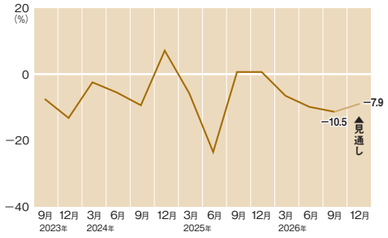
### 売上額・収益DI（前期比）

売上額DIは悪化、
収益DIは改善



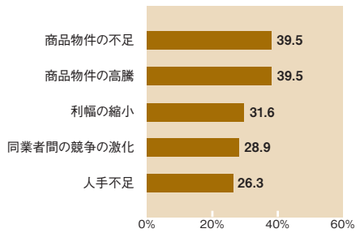

### 資金繰りDI

資金繰りDIは横ばい



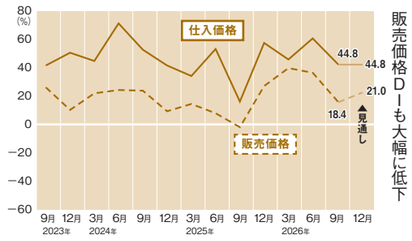

### 経営上の問題点

商品物件の不足と高騰が課題

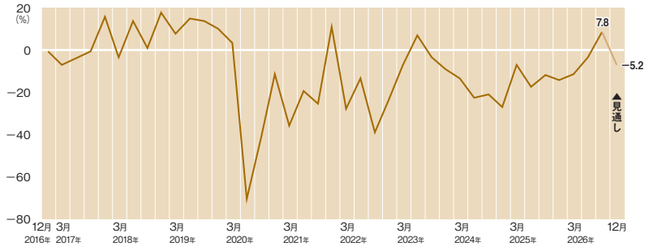



### 価格DI

仕入価格DIは大幅に低下、
販売価格DIも大幅に低下




### 10年間の推移（業況DI）




**お客様の声**

- 金利上昇で利益圧迫は想定以上に厳しい状況になっていくと思われる
（大阪市 不動産業）

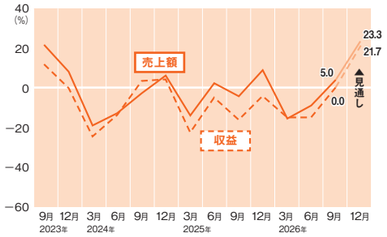
前期
今期
見通し

## サービス業

業況は悪化、
来期は大幅に改善の見通し

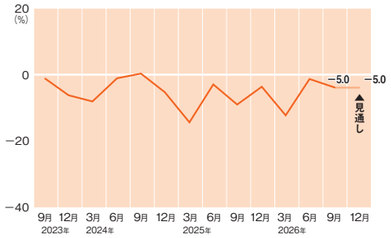
### 売上額・収益DI（前期比）

売上額DIは改善、
収益DIも改善



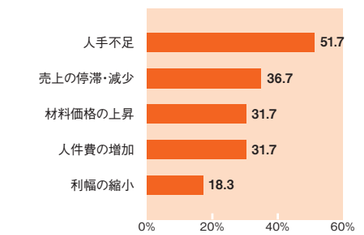

### 資金繰りDI

資金繰りDIは悪化



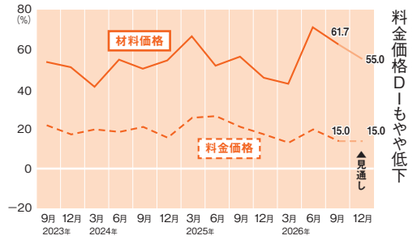

### 経営上の問題点

人手不足が一番の課題

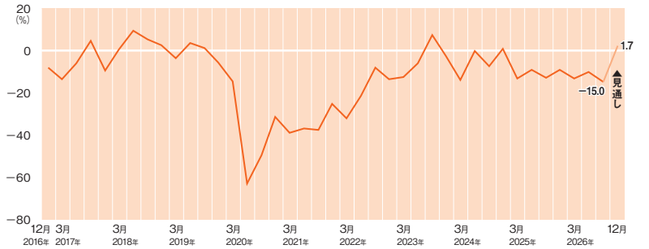



### 価格DI

材料価格DIはやや低下、
料金価格DIもやや低下




### 10年間の推移（業況DI）




**お客様の声**

- 法人税などを引き下げてもらえるとありがたい。従業員の給料を上げたいのでサポートとして考えて欲しい
（西宮市 サービス業）

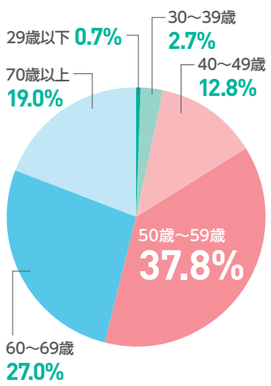
前期
今期
見通し

# 特別調査 2 中小企業の事業承継とM&Aについて

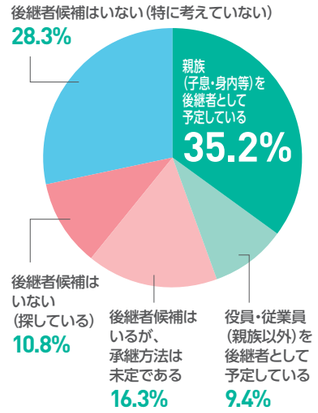
日本の中小企業は全企業の99.7%を占めており日本経済の基盤となっています。しかし近年は経営者の高齢化が進行し、後継者不在など事業承継問題が社会的な課題となっています。このような状況の中、選択技の一つとしてM&Aの関心が高まっており、今回事業承継におけるM&Aについて皆さまの率直なご意見をお伺いいたしました。なお本アンケートで「M&A（第三者承継）」とは、外部の企業・個人への株式譲渡または事業譲渡を指します。親族への承継、役員・従業員への承継は含みません。

調査時期／2026年8月13日～9月3日　調査対象企業数／1192社　有効回答数／415社　有効回答率／34.8%　※四捨五入の関係で構成比の合計が100にならない場合があります。

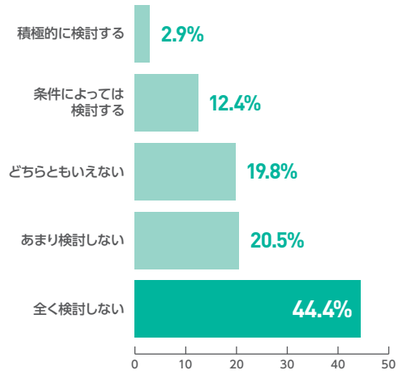
## Q1 貴社の代表者のご年齢に最も近いもの ※1つ選択



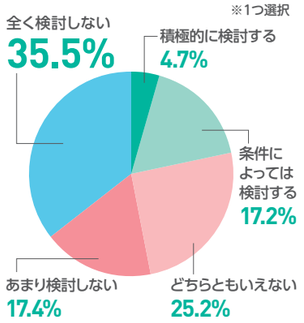

## 貴社の後継者の状況について最も近いもの ※1つ選択



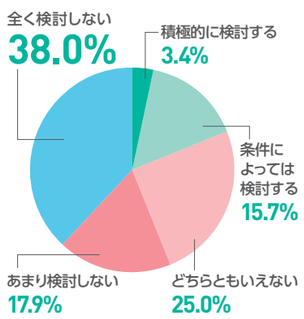

## Q2 現時点で、貴社が事業承継の選択技としてM&A（第三者承継）を検討するお考えに最も近いもの ※1つ選択



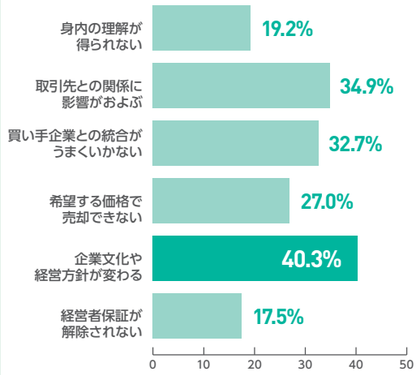

## Q3 貴社の「従業員の雇用が維持されること」がM&A（第三者承継）成約の条件として確約される場合のお考えに最も近いもの ※1つ選択



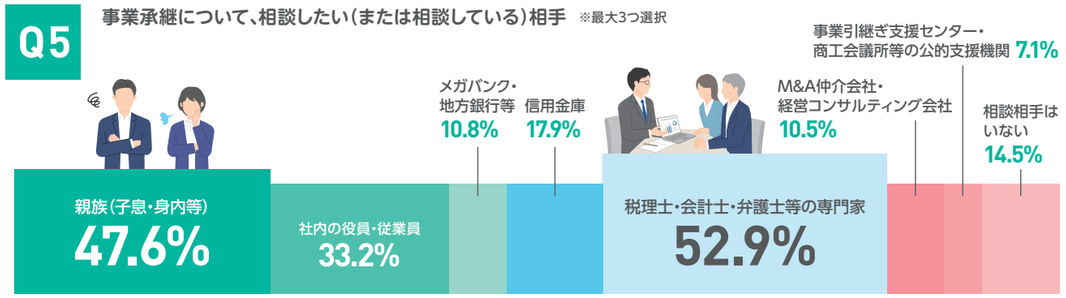

## 貴社の「社名・事業（のれん）が継続されること」がM&A（第三者承継）成約の条件として確約される場合のお考えに最も近いもの ※1つ選択




## Q4 貴社がM&Aを検討する際の懸念事項 ※最大2つ選択




## Q5 事業承継について、相談したい（または相談している）相手 ※最大3つ選択

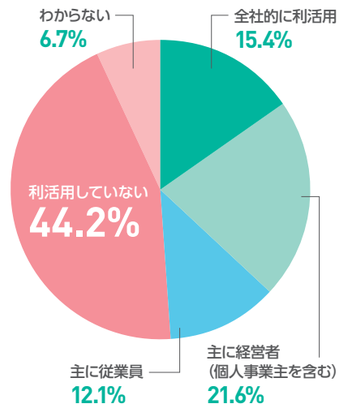



# 特別調査 1 中小企業における生成AIの利活用について

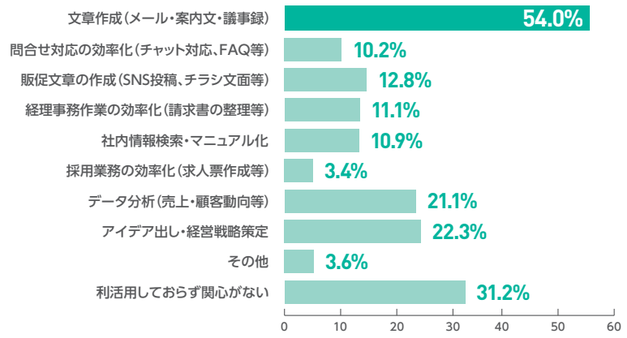
近年、文章作成や情報収集、企画立案などを支援する生成AIは、少人数で業務の生産性を高めるための実践的なツールとして注目されています。導入自体のハードルが下がり、手軽に利用できる環境が整いつつある一方、現場からは「具体的な活用シーンが見出せない」「使いこなすノウハウや推進者が不足している」「情報管理の面で不安がある」といった声も聞かれます。今回のアンケートでは、中小企業における生成AIの活用状況や業務での活用実態、推進にあたっての課題、今後の活用方針等についてお伺いいたしました。

調査時期／2026年8月13日～9月3日　調査対象企業数／1190社　有効回答数／421社　有効回答率／35.4%　※四捨五入の関係で構成比の合計が100にならない場合があります。

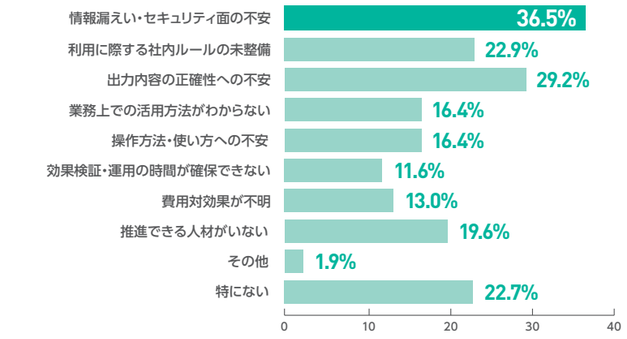
## Q1 貴社では、業務上で生成AIを利活用していますか。利活用している場合は主にどのような方が使っていますか。 ※1つ選択




## Q2 貴社では、業務上で生成AIをどのような用途で利活用していますか。また、現時点で利活用していない場合は、どのような用途での利活用に関心がありますか。 ※最大3つ選択

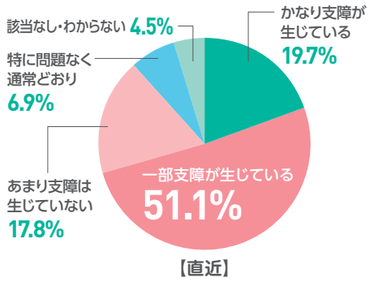



## Q3 貴社が生成AIを業務で利活用する上で、課題となる点は何ですか。もし現時点で利活用していない場合は、その理由は何ですか。 ※最大3つ選択

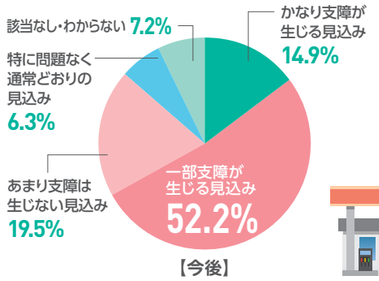



## 特別設問 中東情勢による影響

## Q4 2026年以降の中東情勢の混迷などにより、貴社では原材料や商品などの調達に際して、価格面以外での支障が生じていますか。 ※1つ選択




【直近】




【今後】




## Q5 中東情勢の混迷などにより、原油価格の高騰や、原材料・商品等の調達が困難な状況が生じています。これを受けて、今後、行政に求める支援策は何ですか。 ※最大3つ選択

